

令和6年度 第2回学校関係者評価委員会 会議録

1 日時 令和7年2月19日(木) 10時00分～11時15分

2 場所 小会議室

3 会順・内容

- ・校長あいさつ
- ・各学科代表生徒3年間の取組報告
- ・委員と代表生徒との意見交換
- ・学校評価アンケート集計結果の説明
- ・学校概況報告等
- ・委員の評価及び質疑応答

4 各委員からの質問・意見・提言

[各学科代表生徒3年間の取組報告・意見交換]

- ① **A委員**：4人とも目標がしっかりしている。ビジョンがしっかりしていて3年間の取組に反映しており、まずはその努力に敬意を払いたい。文武両道、部活動と勉強の両立に頑張ることは、社会に出るにあたって良いことで、社会に出てからも生かしていける体験である。
- ② **B委員**：3年間それぞれの分野で努力し、進路も希望どおりに決めてすばらしい。高校生活に培ったスキルと意欲を大事にして、今後も頑張ってもらいたい。
- ③ **C委員**：さすが鹿児島南高校の生徒だと思わせる報告だった。私は所属する学校では魅力ある学校を目指しているが、皆さん自身からとても魅力を感じた。そこで、鹿児島南高校の魅力は何かを教えてほしい。
- 4つの特色豊かな学科があり、多くの先生方からアドバイスがもらえる。一人ひとりが主体的に多くの挑戦をしている。挨拶をしっかりしていて、人との関わりには挨拶がとても大事だと認識している。スポーツが盛んで、みんな一生懸命である。
- ④ **D委員**：資格は強み、ある年齢にきたときに生かされる場合もある。友人・先生・先輩など様々な人と関わるが、信用をなくすと人はだめになる。信用を得るには長い時間がかかるが、失うのは一瞬なので心にとめてほしい。ところで、皆さんにとってよかった先生は誰か、その理由も教えてほしい。
- 学級担任2人(変わっているがしっかりと自分をもっている。3年間担任であり、進路で悩んでいるときも親身に相談にのってくれた。)、部活動顧問2人(一人ひとりに寄りそって、生徒を思い指導してくれた。受験指導を毎週末行ってくれた。)
- D委員**：この質問をしたのは、皆さんもそのような人になれるよう頑張ってもらいたいとの思いからである。

〔委員の評価及び質疑応答〕

- ① **A委員**：校則については、学生の時は「校則なんて」と思っていたが、社会に出てからは必要なことと思う。今は理解できなくても、後ほど感謝するのではないか。生徒は、どうしても周りの緩い方を見てしまう。厳しいところから多少緩めるのはできるが、完全に緩めたところから厳しくするのは大変なので、現状のように厳しい方に基準を合わせた方が良いと思う。卒業してから考えると、3年の時の厳しい先生の言葉が残っている。自分は「見ていてくれた先生がいてありがたかった」と感謝した。ぶれずに指導してほしい。
- ② **C委員**：高校でのタブレットの貸与はどのようにおこなわれているのか。
- 職員：1年生全員と経済的な事情等による2・3年生の貸与希望者に県から整備されているタブレットを貸与している。
- 職員：タブレットの事故が多い。中学校では何か対策をしているか。
- **C委員**：特にしていない。中学校では故意でなければ公費で修理をするが、1学期で市教委の予算が尽きて追加補正予算が組まれた。カバーやバックをPTAで調達している学校もあるようだ。市教委は使って壊す分にはよいとのスタンスである。職員の事故は2件程度である。保険料は鹿児島市においては市が負担している。
- ② **B委員**：今月販売を開始した開発商品（パン）はどこで販売しているのか。
- 職員：学校の購買部とイケダパンの商品を取り扱うスーパーマーケットで販売している。
- ③ **B委員**：推薦入試が学校推薦と自己推薦になり、入試の状況が大きく変わっている。また、志願状況の新聞発表において、本校体育科だと一般入試の志願倍率は定員8名に対して6名出願で0.75倍だと人気がないように見えるが、すでに32名は合格しているため、表記による印象の与え方がよくないのではないか。鹿児島商業・鹿児島女子も体育系学科の一般入試は出願が少ない。カタカナ表記の学科名で中身が分かりづらく感じる。
- **C委員**：私立高校のハードルが上がっている。また、南高校は志願倍率が1倍を超えているが、私立は早期に受験があるため公立高校にしわ寄せが来ている。
- 職員：同じような学科が公立高校間にあり、生徒を取り合っている。様々な入試形態の実施・学科併願により南高校を希望する生徒に対応する必要がある。
- **B委員**：生徒・保護者は通学時間を短くして、その時間を他のことに使いたい。併願は是非検討してほしい。
- 職員：県教委からは魅力の発信と言われる。普通科の魅力づくり、近隣中学生が満足する学校であるようにしなければならない。
- ④ **D委員**：最近自転車通学生がヘルメットをしっかりとかぶっている（坂之上周辺）。進路実現がもっとも大事だと考えるが、生徒への支援はどのように行っているか。
- 職員：年内入試や就職への対応については面接・小論文の指導を徹底している。より多くの先生から指導を受けるようにしており、就職希望者は10人以上の先生からの指導を受けることを課している。小論文指導は担当者を割り振って、学校全体で取り組む体制を作っている。
- **D委員**：中間考査を廃止することだが勉強しなくなるのではないか。
- 職員：単元テストを適時実施するとともに、期末テストは残した。テストがまったくない学校もあり、定期考査がない方が細やかな指導ができる。

- ⑤ **A委員**：生徒の頑張りに感心した。これは教職員の努力でもあると思う。敬意を表したい。谷山地区に住んでおり、仕事柄平日が休みのことが多く、生徒の登下校の様子を見ることが多いが、全体的にきちんとしている。ヘルメットもかぶっているし、制服もきちんと着こなしている。サザンホールは吹奏楽部やダンス部が使ってくれているが、挨拶などもきちんとしていて気持ちが良い。制度や時代の変化が大きいので大変かと思う。朝補習がなくなり、自分で学習していく習慣をつけさせる事も必要だが、生徒・保護者は個別指導をしてほしいと要望するなど、折り合いをつけるのが大変だと感じる。今後は、保護者の理解も必要だろう。

信頼される学校づくりのための委員会報告

1 日時 2月19日(水) 11時30分～12時

2 場所 校長室

3 会順・内容

- (1) 開会の言葉
- (2) 校長あいさつ
- (3) 現況報告及び意見交換

4 現況報告及び意見交換

- ① 職員：懲戒処分が県全体で発生しており、本校でも違反やもらい事故はある。勤務の日（毎月17日）に添付してある資料を配布して、勤務規律の厳正確保を図っている。
- ② C委員：勤務の日の資料は中学校でも活用させていただきたい。先生方が意識すべきポイントが示してある。先週も中学校職員のPTA会費着服の報道があり、学校にも心配の声が寄せられた。生徒・職員が無事に学校に来るか、一日が無事に終わるかと考えて毎日を過ごしている。
- ③ B委員：部活動の地域移行は進んでいるのか。超過勤務時間は部活動指導の時間にも入っているのか。
→ 職員：地域移行は中学校では進んでいるが、高校はまだである活動指導の時間を入れていない職員もいるかもしれない。平日1日・週末1日の休養日も守れていない部もある。
- ④ D委員：女子生徒のズボン着用は多いのか。
→ 職員：増えている。
→ C委員：中学校は1年生からブレザーになりすっきりした印象を受ける。街中でスカートの下からジャージやハーフパンツが見えた状態の学生を多く見る。
→ 職員：気候の変化への対応が難しいことから、制服の移行期間をなくす。
- ⑤ C委員：頭髪指導については中学校ではツブブロックや触覚ヘアは指導しない。極端なツブブロックや女子のお団子ヘアについては「何でもかんでも自由はだめ」という生徒からの意見があった。学習上支障がなく、進路実現の妨げにならないようにする必要はある。生徒会の生徒に発信させると混乱や反発が少ない。パーマ・カラーは不可、ストレートパーマは届出制にしている。
→ 職員：色々な中学校から本校には入学してくる。中学校での校則の緩和が学校評価アンケートの校則に関する項目の評価の低さにつながっている。2・3年生になると必要性も感じてくる。
→ 職員：生徒会と職員の校則についての話し合いでも年頃だからおしゃれもしたいという意見とともに、ルールは必要という意見も出た。
→ C委員：保護者・地域の会ではこのような意見が出ているという周囲からの期待を伝えることも有効である。